受験番号	

氏　　名	

2023年度　東京未来大学入学者選抜試験
一般選抜　C日程（2月24日実施）

国語

【注意事項】

1　試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。

2　試験時間は1科目60分です。

3　原則として、途中退出は認められません。試験中に気分が悪くなった人や、トイレに行きたくなった人は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。

4　試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページ落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。

5　試験開始の合図の後、受験番号・氏名を、問題冊子と答案用紙の該当欄にそれぞれ正しく記入してください。

6　解答は、シャープペンシル又は鉛筆で記入してください。

7　問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいませんが、どのページも切り離してはいけません。

8　「やめ」の合図があったら速やかに筆記用具を机上に置いてください。

9　試験終了後、問題冊子、答案用紙はすべて回収します。

10　その他、必ず監督者の指示に従ってください。

I　現代文　一般選抜　C日程（2月24日実施）

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

若い女性であるしおりさん、めぐみさんが話している。二人は会社の同僚である。

しおり：あなたはブタね。
めぐみ：そうよ、わたしはブタ。ブタは最高だよ。

右の会話をどう思われるだろう。めぐみさんはしおりさんから面と向かって「ブタね」と言われたのに、何のショックも感じないようである。そしてにこにこしながら、「最高だよ」とまで付け加えている。

ここでは、会話のシチュエーションが問題なのである。場所は夕方のお好み焼き屋さんで、二人は何かを注文しようと、メニューを見ている。そこには、「イカお好み焼き」「牛お好み焼き」「ブタお好み焼き」などが並んでいる。これで難なくお分かりだろうが、この会話は省略せずに表現しようとすれば、

しおり：あなたはブタのお好み焼きを注文するんだね。
めぐみ：そうよ、わたしはブタのお好み焼きを注文するよ。ブタのお好み焼きは最高だよ。

とでもなるだろう。（　①　）実際はこんなまどろっこしい言い方はしないと思う。

コミュニケーションがうまく成り立っていくためには、話し手と聞き手の間で、知っていることや仮定することが一致する必要がある。（　②　）双方が伝えようとする基盤に共通性が必要なのである。読者がしおりさんたちの会話に接したとき、この基盤に接していなかった。しかしいったん基盤が判明すればどうということのない話である。後で示したパラフレーズより元の会話のほうがずっと普通であろう。回りくどいことを言わずに、会話がスムーズになっている。

それでは、

高橋：うちの孫はおじいさんですよ。
松村：うちの孫はおばあさんですよ。

という会話はどうだろうか。ここまで読んで来ると、ある程度想像がつくかも知れない。

孫たちが通っている幼稚園で学芸会が行われることになった。「おじいさん」「おばあさん」というのは、『桃太郎』の配役についての、二人の会話なのである。想像のついた方は、基盤を共有できたことになる。

共通基盤があるかないかで、話の分かりやすさが全然違う、という場合もある。まず、次を読んでもらいたい。ある人が何かのことを説明している。

進め方は簡単です。まず、物をいくつかの山に分けていきます。少量の場合は一つの山でもいいですが、一度にあまり多くやりすぎないほうがいいでしょう。むしろ少なめにしたほうが後悔はしないと思います。一山三〇分ぐらいで作業は終わるのですから。昔は一つずつ行ったのでずいぶん時間がかかりましたが、今はとても楽になりました。いずれにしても、この作業は生活の一部です。人によって必要性を感じる度合いは違うかもしれませんが、将来とも、なくなることは考えられません。

個々のセンテンスの意味は容易に理解できるだろうが、この文章が全体として何を言っているのか、非常に分かりにくいと思う。この内容を暗記して誰かに話せと言われたら、とても大変だと感じるかもしれない。しかし、「この話は洗濯の説明です」という説明を聞いた上で、もう一度右の文章を読み直してもらいたい。今度は内容が容易に理解できるだろうし、記憶するのもそんなに難しいことではないだろう。「洗濯」という（　Ｉ　）を話し手（この場合には正確には「書き手」だが）と共有することで、聞き手（読み手）である読者は、「山に分ける」とか、「三〇分ぐらいで作業は終わる」とか「作業は生活の一部」とかの、個々の表現が具体的に何を指しているのかが簡単にイメージできるようになった、ということになる。

さて、共通の基盤を確立していくためには、相手が何を知っているか、仮定しているかを推測していく必要がある。ただし、会話の最中に相手の心の中を覗(のぞ)くわけにいかない。どうしたらそれが分かるのだろうか。ここでは、次のような[a]三種類の根拠が利用されるという。

第一は、会話が行われている物理的な状況である。最も典型的な例としては会話の現場で指示詞を用いる場合がある。医師に、

ここが痛むんです。

と頭のてっぺんを指さして頭痛の部位を示したり、

その写真見せて。

と言って、友人が見ている写真を見せてもらうなど、日頃ありふれたケースである。

また、前述のしおりさんとめぐみさんの間で「ブタね」という会話が問題なく進行したのも、物理的状況を共通基盤としていたためである。同じ(ア)ゲンメイ内容でも状況が変われば、伝わることは全く異なる。たとえば会社の事務机の前でしおりさんがめぐみさんにいきなり、

あなたはブタね。

と言ったら、めぐみさんの反応は果たしてどうだっただろうか。

共通の推測の第二の根拠となるのは、先行する会話である。

知子：真理さん、結婚したんだって。

裕子：そうですよ、あの人、独身を貫くって言っていたのに。

という会話において、「あの人」が誰を指すかは自明だろう。直前の知子さんの発話から「真理さん」を指すことが容易に推測できる。

第三に、同じ社会に暮らしている以上、相手も知っているだろうと予想できることがある（共同社会の成員性）。たとえば日本人の成人であれば、（二〇一三年の一月の時点で）現首相が安倍晋三氏であることは知っているだろう。加藤さんと浅井さんは同じく名古屋周辺に住んでいるので、名古屋駅の近くに「ナナちゃん人形」と称する巨大な人形があることを知っているだろう。また、二人は同じ会社の同じ部署に属しているので、「執務室」といえば、会社近くの居酒屋の(イ)インゴであることを知っているだろう、などとお互いに予想できる。したがって、加藤さんが浅井さんに、

今度の首相はどれぐらい保つんだろうね。

と言えば、浅井さんは、首相とは安倍氏のことを言っていると分かるし、

ナナちゃん人形のところで待っているよ。

と言えば、それ以上詳しく待ち合わせ場所を確認する必要はない。また、加藤さんが浅井さんに、

昨日、部長と課長は、「執務室」に遅くまでいたらしいよ。

と言ったとしても、浅井さんは部長と課長が特別に仕事熱心だと感心する必要はないのである。

ここで注意してほしいのは、共通の基盤というのは、常に会話に先立って確定しているわけではないということである。会話が進行

しながら、共通の基盤が次第にできあがっていくこともある。

加藤：昨日、吉田主任に会ったよ。
浅井：え、吉田主任って？
加藤：あ、知らなかったか。ハロー製薬の営業主任だよ。
浅井：知らなかった。その人、どんな感じ？
加藤：なかなかの切れ者だよ。

当初は浅井さんの基盤には「吉田主任」がなかったが、この会話の中で新たにそれを確立して、途中からは「その人」として言及していることになる。

また、話す側は、いつも聞き手との共通の基盤を確認して発話するとは限らない。むしろ聞き手がいろいろな手がかりから、積極的に推測をする。

あなたが机のそばにいる。その上に、電子辞書とボールペンが並べて置いてある。二～三メートル離れた位置から、友人が指さしながら「それ取って」と言った。このとき、あなたは、指先を延長した軌跡が正確に電子辞書を指しているかどうかをあてにはしないだろう。（　③　）相手が英語の本を読んでいて、右の発話の直前に、

あれ、この単語どんな意味だったかなあ。

とつぶやいたことのほうが、推測を行うための手がかりとしてはずっと有効であろう。

次に、図をご覧いただきたい。英語の単語が三つ並んでいるが、もし、

ひょっとしてその単語の意味分かる？

と誰かに聞かれたとする。あなたならどのように答えるだろうか。もし、三つとも意味が分かったとしても、全部を答えるのではなく、

ラバだよ。

と真ん中のものを答えるのではないだろうか。「ひょっとして意味が分かる」と問うということは、難しいことばに違いない。聞き手はそうした前提から、「その単語」がどれを指すのかを推測するのである。

このように、聞き手自身が積極的に推測することで、コミュニケーションはスムーズに

tiger
mule
pig

図　「その単語」はどれか？

進行していく。つまり聞き手の側にも、話し手との共通の基盤に配慮しようとする姿勢がある。そのおかげもあって、話し手の側は、日常の会話などでは基盤の共通性が完全だとの確証を得て発話する必要はない。「聞き手が共通の基盤を（　Ⅱ　）できる」という見通しだけで発話する場合も多いのである。ただし、このことは誤解が生ずる原因にもなり得る。

以上のような話し手、聞き手の共通の基盤への配慮の前提としては、相手がどのような視点からものを見ているか、ということを把握する必要がある。この場合の視点というのは、単に物理的に視線がどの方向に向けられているか、ということだけでなく、心がどのような方向に向けられているか、ということも含んでいる。

ここで述べている相手の視点に立つことも含め、心の働きや性質を理解する知識、認知的枠組みのことを「心の理論」という。年少児においてはこうした心の理論が未発達で、そのためにコミュニケーションに(ウ)シショウが生ずることがある。しかし、成長するにつれて次第にうまくできるようになっていく。ただし、大人でも完全にはならず、それが（　Ⅲ　）の原因にもなることがある。

（岡本真一郎『言語の社会心理学』中公新書より）

一　文章中の（ア）・（イ）・（ウ）のカタカナを漢字に直しなさい。なお、漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

ア　ゲンメイ　　イ　インゴ　　ウ　シショウ

二　文章中の①・②・③に当てはまる言葉を、それぞれについて、次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア　もし　　イ　そして　　ウ　たとえば　　エ　だから
オ　つまり　　カ　しかし　　キ　ところで　　ク　むしろ

三　文章中の（Ⅰ）・（Ⅱ）・（Ⅲ）に入る最も適当な言葉を、文章中の他の部分から探して、それぞれ漢字二文字で答えなさい。

四 文章中に、(a)「三種類の根拠」とあるが、この三種類を、それぞれ八文字以内で具体的に答えなさい。

五 次のア～オの文について、文章の内容や筆者の主張に合うものには○を、異なるものには×をつけなさい。

ア コミュニケーションがうまく成立するためには、話し手と聞き手の間で、知っていることや仮定することが一致する必要がある。

イ 個々のセンテンスの意味を明確にして話をしていくことが、全体として分かりやすい表現となっていく。

ウ 会話の現場では、指示詞が使われる場合があり、この指示詞が会話の進行を助けていることが多い。

エ 聞き手は、無意識のうちに積極的に相手の心の内を覗こうとしているため、会話の背後にあるかなりの情報を得ることがある。

オ 年少児は、いわゆる「心の理論」が未発達のため、コミュニケーションに問題を抱えることがある。そこで、意図的・計画的に、発達を促すような指導を行う必要がある。

Ⅱ　言語事項・文学史　一般選抜　C日程（2月24日実施）

一　次の①～⑤の空欄に、下の［　　］の意味になるように、漢字一文字を書き入れなさい。なお、漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

① （　　）心を買う。［人に気に入られるように努める］
② （　　）を巻く。［ひどく驚く、また、感嘆する］
③ 言わぬが（　　）。［はっきりと言わない方が、味わいがあってよい］
④ （　　）が低い。［他人に対して謙虚である］
⑤ 六日の菖蒲、十日の（　　）。［時機を失したものには価値がない］

二　次の①～⑤の空欄に入る適当な漢数字を答えなさい。

① （　　）知半解
② 一日（　　）秋
③ 岡目（　　）目
④ （　　）律背反
⑤ 孟母（　　）遷

三　次の①～③の問いに答えなさい。

①　次のA～Cの作品のそれぞれの著作者について後のア～コから一人ずつ選び、記号で答えなさい。

A　山羊の歌　　B　高瀬舟　　C　山月記

ア　幸田露伴　　イ　森鷗外　　ウ　芥川龍之介
エ　太宰治　　オ　泉鏡花　　カ　宮沢賢治
キ　高村光太郎　　ク　川端康成　　ケ　中島敦
コ　中原中也

②　三好達治の作品を一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　一握の砂　　イ　みだれ髪　　ウ　測量船
エ　月に吠える　　オ　抒情小曲集

③　島崎藤村の作品でないものを一つ選んで、記号で答えなさい。

ア　若菜集　　イ　破戒　　ウ　夜明け前
エ　桜の実の熟する時　　オ　海潮音

Ⅲ　現代文　一般選抜　C日程（2月24日実施）

次の文章を読んで、各問いに答えなさい。

義経に対する民衆の夢が、最も壮大なスケールで展開したのは、義経＝ジンギスカン説であろう。初耳のかたもおられると思うので、かいつまんでお話ししよう。

都を追われた義経は、藤原秀衡（ひでひら）を頼って奥州平泉へ逃げた。平泉は彼が少年時代をすごした土地であった。その領主秀衡は、義経の恩人であり、強力な庇護者である。彼の平泉到着は、文治二年（一一八六）の暮れとなっている。ここでしばらくの間、義経は(ア)ヘイオンに暮らすが、文治三年十月、秀衡の死とともに彼はまたも窮地に立たされねばならなかった。

秀衡の嫡子泰衡（やすひら）は、かねてから鎌倉の頼朝によしみを通じ、おりあらば頼朝の恩顧にあずかろうとしていた。そこで泰衡は頼朝の許しも得ず、頼朝に気をきかしたつもりで、義経を衣川の館に攻め殺すのである。

ところが奇妙なことに、明治時代になって、一部の歴史学者が、衣川で殺された義経は実は身がわりで、本物は（　Ⅰ　）へ行き、さらに隣の中国へ渡って「元（げん）」の太祖、（　①　）ジンギスカンになったという説を唱えた。その理由は、およそ次の三点に整理される。

一、『大元史』の中の「成吉思汗（ジンギスカン）伝」によると、義経の死んだ年から七年間とまったく同じ七年の間「成吉思汗伝」も不詳となっていること。おそらく義経は死んだとされる年から約七年かかって中国へ渡り、遊牧民を平定し、元をつくったに相違ない。

二、「元（げん）」と源氏の「源」は同じ音である。これは義経が自分の家名を国号にしたのだ。

三、「元」皇室の紋は源氏と同じ笹りんどうである。しかも元の軍隊は白旗を軍旗にしている。

よく考えれば、薄弱でナンセンスな理由なのだが、この説は、すでに江戸時代ごろからあって、明治のころには、かなり強固に一般に信じられていたのかもしれない。確かに話としてはなかなか(イ)ツウカイであるが、この義経＝ジンギスカン説には、致命的な欠陥が一つある。それは、この二人の体格があまりにも違いすぎていることだ。

ジンギスカンは、七尺余りの大男で、義経は五尺に満たない。

源義経が伝えられるような絶世の美男子ではなく、みにくい小男だったというのは、このごろでは史実として一般にもよく知られるようになった。

事実、源義経という男は、五尺足らずの小男で、（　②　）ねこ背でそっ歯で、肺結核にもかかっていたらしい。なぜこんなことがわ

かるかというと、いくつか証拠が残っている。

それは、春日神社と吉水神社に義経が奉納した鎧（よろい）である。鎧甲（よろいかぶと）というものは、すべて着用する人間の体に合わせて作る。つまりオーダーメードなのである。こればかりは大は小を兼ねるということはできない。（　③　）この二領の甲冑（かっちゅう）から逆算すれば、義経の身長はわかる。それと吉水神社の腹巻きを調べたところ、背の部分をゆるめて威（おど）してあった。これは彼が前かがみで、かなりねこ背だったことの証明になるものだ。

さらに、鎌倉幕府が義経を探したときの手配書を読むと「そっ歯で、顔色は青白い」とあった。それに絶えずせきばかりしていたという。これが肺結核ではないかと推測する根拠である。

平安朝時代の軍船は幅約二・五メートルである。これを八艘横列に並べたら二〇メートルになる計算だが、これだけの距離を、七〇キロあまりの大鎧と、五枚綴（しころ）の甲をつけたまま、立ち幅飛びで、次々に跳んでゆく。いくらスーパーマンでも奇跡に近い至難のわざである。仮に義経がジンギスカン並みの体力を備えていたとしても、とても可能とは思えない。要するに八艘飛びは軍記文学らしい無邪気な誇張であり、義経＝ジンギスカン説も庶民の夢がはぐくんだ伝説と解釈したほうがよさそうだ。

ところで、義経伝説の基本になった『義経記』であるが、室町時代にできた作品である。同じ軍記物でも『平家物語』や『源平盛衰記』のように、一般に広まらず、主として東日本に(ウ)シントウしていった。広めたのは『平家』と同じく、目の不自由な（　Ⅱ　）で、東日本一帯を放浪して義経の物語を弾き語りで聞かせた。その結果、彼の死んだ奥州地方には広まりすぎるくらいになり、ついには義経を祭る神社までできるようなことになった。それがやがて海を渡ったのである。

北海道で発掘される内地の遺物で最も古いものは平安初期のもので、鎌倉時代になるとその数は激増する。この事実の意味するところは、鎌倉時代に日本の人口が急増し、内地であぶれた人々が陸続と北海道へ移住したことを示している。この移住民たちが、かつて聞き覚えた（　Ⅲ　）を北海道で広め、それがいつのまにか義経が北海道へ渡ったということになってしまうのである。

これほど義経は庶民に愛され、彼らの夢を満たす人物であった。日本人にとって英雄とは、美しく、悲劇的で、正義の味方でなければならなかったのである。義経こそ日本人が描いた英雄の理想像なのである。

（樋口清之『はだかの日本史』主婦の友社より）

一　文章中の（ア）・（イ）・（ウ）のカタカナを漢字に直しなさい。なお、漢字は楷書で丁寧に書きなさい。

ア　ヘイオン　　イ　ツウカイ　　ウ　シントウ

二　文章中の①・②・③に当てはまる言葉を、それぞれについて、次から一つずつ選んで、記号で答えなさい。

ア　それとも　　イ　けれども　　ウ　いわゆる　　エ　ところで
オ　なぜなら　　カ　しかも　　キ　すなわち　　ク　したがって

三　文章中の（Ⅰ）・（Ⅱ）・（Ⅲ）に入る最も適当な言葉を答えなさい。但し（Ⅰ）及び（Ⅲ）については、文章中の他の部分から探して、それぞれ漢字三文字で答えなさい。（Ⅱ）は、文章以外から最適な言葉を自分で考えて、漢字四文字で答えなさい。

四　次に示す一段落が、本文中から欠落している。正しく挿入した場合、後に続く段落の最初の五文字を答えなさい。

> このような人物が、重い鎧を着けて、八艘飛びなどという離れわざを演ずることができると、あなたは思われるだろうか？

問題は以上です。